

野尻 温泉(鉱泉)事情

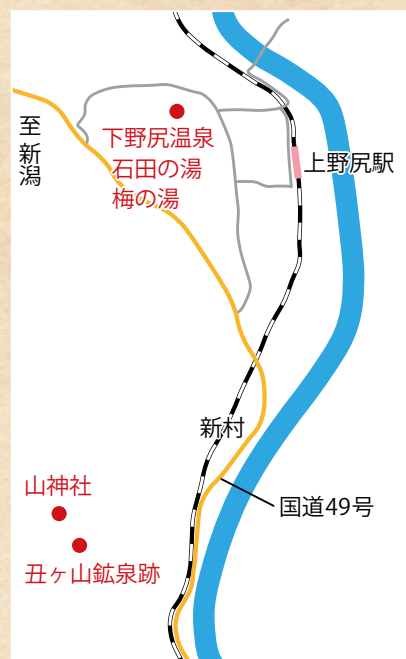
西会津町の温泉といえば「さゆりの湯」、古くからは野沢の「四岐の湯」などが有名ですが、野尻にも昭和の時代まで営業を続けていた鉱泉（沸かし湯）がありました。

まず1つ目は「^{うし}丑ヶ山の鉱泉」です。今は建物もなく、当時を偲ばせるものは見当たらなくなりましたが、この湯には「子宝」の伝説があり、「山の神の湯」として営業していました。この泉質を分析すると、会津地区では珍しいpH9ほどの強いアルカリ性を示し、ヌルヌルとして肌がすべすべとなるという「美人の湯」であったことが分かっています。北西に少し登ったところに「山神社」があります。杉のご神木があり、祭神の^{いわなが ひめ}一柱である「石長比売」は永遠の命を司る女神で、この湯は命、健康、美しい肌、子宝に効くと近隣の人々の信仰を集めるとともに、実際に効能のある鉱泉として賑わいを見せていました。

2つ目です。上野尻と下野尻の境にある下水処理場の奥の蟹沢の流れの岸に「下野尻温泉 石田の湯・梅の湯」がありました。すでに昭和60年頃、営業を終了してしまいましたが、赤い屋根の建物はまだ残っています。看板には、「東京都公立小学校校長退職記念として建設」「郷里へのサービス」などと書かれ、東京に勤めていた人がUターンし、ここを営っていました。ここも近隣の人々で大いに賑わいました。



山神社



下野尻温泉 石田の湯・梅の湯

職員の異動

◎10月5日付 ※（ ）は旧任

▼企画情報課主事伊藤徳裕
(学校教育課主事)

今月の表紙

今月は西会津小学校大運動会より。例年5月に開催しているこの運動会も、今年は新型コロナウイルスの影響で開催時期が10月に延期され、種目数の変更や競技時間を短縮した上で行われました。

(11ページに関連記事)

編集後記

新しい生活様式の下で、イベントや行事の在り方が見直されています。今月取り上げた運動会も同様です。これらのイベントの様子や人がにぎわう様子は紙面を明るくしてくれます。これからも紙面を通して、コロナ禍でも元気な町やさまざまな人の様子を多くの皆さんにお届けできればと思っています。(泰)